

※学識経験者の意見等

○課題に対する今後の改善策について鋭意努めていただきたい。特に、一部保護者から伝えられる学校への不満の具体的事例を教職員研修で丁寧にフィードバックすることは極めて重要な取組となるので、一層の充実に努めていただきたい。

※学識経験者の意見等に対する今後の方向性

○保護者から教育相談に伝えられる学校への気持ちに関しては、丁寧に教職員の研修等でフィードバックするとともに、具体的な支援方法についても、家庭・学校・教育相談が同じ方向に向かって共有するように努めていく。

No. 14	事業名	人材育成推進支援
--------	-----	----------

1. 基礎情報

対応する重点課題	重点課題4: 学校の教育力向上	横須賀市教職員人材育成プランに基づき、集合研修、校内研修、自己啓発などを通して、学び続ける教師の育成を目指します。また、研修の場の充実、学校を訪問しての研修など総合的な指導・助言を図ります。
掲載編	学校教育編	
関連目標	目標2: 学校の組織力や教職員の力を高めます	
関連施策	施策(8): 学校における校内研究・研修への支援の充実	
担当課	教育研究所	

2. 事業の概要

3. 行動計画

項目		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
訪問研修	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	実施	実施	—

4. 実施内容(実績)および効果

【実施内容と効果】 ○集合研修は、主として経験年数に応じた研修において、「学び続ける」ということを意識づけるため、それぞれの経験年数に応じた自分の役割、学ぶべき内容、数年後の自分の姿などを取り上げながら進めるよう内容を構築した。そして、それを通して、教育公務員としての職務遂行能力、専門的な指導力、そして学校運営に参画する能力が身に付けられるよう研修を実施した。また、1年・5年経験者研修受講者には「復命書」作成を義務付け、研修内容の還元が進むよう働きかけた。 感想用紙に書かれた研修受講者の記述からは、職場における自分の役割を認識し、学び続ける意欲を保ちながら、学校運営に携わっていかうとする意識を持ったことが読み取れた。 ○校内研修は、これまで実施してきたペア・グループを組んでの研究授業・授業参観を引き続き行い、経験豊かな教員から経験の浅い教員に指導技術や知識が伝承される機会をつくりだした。また、校内における人材育成の活性化をさらに進めるため、校内研修のカリキュラムを見直し、管理職との面談を位置づけることによる効果を見込み、新年度からの校内研修に組み込むこととした。 1年間の振り返りとして提出された「実践報告書」からは、研究授業を参観しあい、協議することの意義を感じ取り、日常的に取り組んでいくことの大切さを感じ取っていることが読み取れた。 ○自己啓発に関わる点は、基本研修の実施要項等でその重要性を伝えている。また、各教科研究会への積極的な参加を促すため、研究会OBを講師とする「パワーアップ研修講座」を実施し、研究会に所属する意味、そこで得られる知識・技能等を学ぶ機会を設定した。 感想用紙に書かれた研修受講者の記述からは、研究会で力量を磨いてきた先輩教師の姿勢に感化された者があり、学ぶ場を求めて取り組むことの大切さを感じ取っていることが読み取れた。 ○訪問支援研修は、要請があった学校に対して実施した。主に授業研究や「課題解決の演習手法を用いた研修の場づくり」を提供し、ワークショップ型の研究協議会の進行役を務めたり、学校内の研究推進委員会での協議の支援に入った。

5. 課題

・英語・外国語活動、道徳科、支援教育、保護者対応などの新たな課題に対する対応 ・管理職の力量向上および、次期管理職となる人材の育成 ・採用初期の教職員の初任者研修終了後のフォローアップ ・校内研修を通じたOJTのますますの活性化 ・研究会との連携などによる、自己啓発による力量アップの推進
--

6. 課題に対する今後の改善策

上記「5」に挙げられた諸課題に対応した新研修体系における計画的な人材育成の実施 ・小学校外国語活動に関わる研修の充実 ・基本研修における「保護者対応」をテーマとした内容の実施 ・教職2年経験者研修の新設 ・校内研修における「管理職面談」の実施 ・研究会との連携による「パワーアップ研修」の継続

※学識経験者の意見等

○各学校の教員年齢構成の急激な変化に対応した、総合的な教員研修体系の見直しとその実施が急務となるなか、着実に効果的な施策を実施してきている。さらに教職2年経験者研修の新設を予定するなど、より充実した研修体系ができていることも評価できる。今後は「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた高度な授業力の養成が課題となる。校内研究・研修の機会を各経験年数者層に応じて充実させていくことはもちろん、さらに授業力向上の質的な改善を図る必要がある。優れた授業力を発揮する教員の処遇の改善を図り、同時にその優れた指導力を他の多くの教員の授業力向上に向けた指導・支援へと活用していくこと(例えば「指導教諭」の導入)により、高度な授業力を持つ教員自身のモチベーションを高め、「学び続ける教師」に対するインセンティブの在り方の幅を広げることなども検討した方がよい。

※学識経験者の意見等に対する今後の方向性

○「教科指導員の授業参観」や「フロンティア研究発表の参観」などを研修体系に位置付けること、年次研修のプログラムに研究会発表の場を設けることなどを計画し、より多くの教員が質の高い授業実践にふれ、活用を考えることにつなげていきたい。

No. 15	事業名	子どもと向き合う環境づくりの推進
--------	-----	------------------

1. 基礎情報

対応する重点課題	重点課題4: 学校の教育力向上	子どもと向き合う時間を確保するために、事務的な業務の効率化を図る手立てを講ずるなど、学校と教育委員会が一体となって取り組むための方策について検討会議などにおいて検討し、教員が子どもと向き合う環境づくりに取組ます。
掲載編	学校教育編	
関連目標	目標2: 学校の組織力や教職員の力を高めます	
関連施策	施策(9): 教員が子どもと向き合う環境づくりの推進	
担当課	教育政策担当	

2. 事業の概要

3. 行動計画

項目		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
子どもと向き合う環境づくりに向けての検討会議など	計画	開催	開催	開催	開催
	実績	未開催	開催	開催	—
子どもと向き合う環境づくりに向けた方策の実施	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	実施	実施	—

4. 実施内容(実績)および効果

【実施内容】

○「子どもと向き合う環境づくりに関する検証会議[平成27年度]」の検証結果を踏まえ、平成28年度は、学校業務の改善が進み、学校において「子どもと向き合う環境づくり」が進んでいるという「教職員の実感」につながる具体的な方策について検討を行った。その中で、子どもとの関わりを豊かにするために、時間を生み出すために役立つ情報や実践例などを掲載した「学校業務改善ガイドブック」を作成し、全教職員に配布した。なお、ガイドブックには、教職員のタイムマネジメントの意識の向上の重要性についても記載した。

【効果】

○学校と教育委員会において、「子どもと向き合う環境づくり」における具体的方策についての取組を進めることができた。
 ○学校からの意見を受け、教育委員会の各課で事務業務の見直しが行われ、部分的ではあるが、学校における事務負担は軽減されてきている。
 ○「学校業務改善ガイドブック」が、子どもと向き合う時間を生み出すために役立つとともに、教職員のタイムマネジメントの意識の向上につながることを期待している。

5. 課題

○検討会議において、学校の意見を受け、教育委員会の各課における事務業務を改善していくという循環は行われるようになってきている。しかし、その効果は限定的になっているものが多く、教職員の実感にはつながりにくい現状がある。そこで、「子どもと向き合う環境づくり」においては、教職員一人一人のタイムマネジメントの意識の向上も重要となってくる。「学校業務改善ガイドブック」が活用され、タイムマネジメントの意識向上につながるよう、様々な場面において働きかけを行っていきたい。
--

6. 課題に対する今後の改善策

○「子どもと向き合う環境づくり」につながる業務改善については、学校のニーズを把握し、それを具体的な取組に結び付けていくシステムを構築する必要がある。 ○教職員のタイムマネジメントの意識の向上によって教職員の働き方がどのように変容していくのかを分析していく必要がある。そのためには、教職員の働き方の実態について把握することも必要であり、その手段の検討も必要になる。
--

※学識経験者の意見等

○教職員のタイムマネジメントの意識改善が同時に教職員の働き方そのものにどのような効果をもたらすか、是非、具体的に検証していくよう進めていただきたい。そうした具体事例とデータが示されることにより、教職員にとっての働き方改革が大きく前進するものと考えられる。

※学識経験者の意見等に対する今後の方向性

○学校と連携を図り、教職員のタイムマネジメントの意識改善につながる取組を進めていきたい。また、教職員の働き方の実態を把握する調査を行い、客観的な数値を活用して、実態について具体的に周知していくとともに、取組についての検証も進めていきたい。

No. 16	事業名	子ども読書活動推進事業
--------	-----	-------------

1. 基礎情報

対応する重点課題	重点課題5:社会教育施設による学習支援の推進	子どもたちを取り巻く家庭・地域・学校などと連携し、子どもの読書活動を推進するためのさまざまな事業を実施します。
掲載編	社会教育編	
関連目標	目標5:図書館・博物館・美術館の活動を充実させます	
関連施策	施策(12):図書館活動の充実	
担当課	中央図書館・児童図書館	

2. 事業の概要

3. 行動計画

項目		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
家庭・地域における子どもの読書活動の推進	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	実施	実施	—
学校への資料の提供および情報発信	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	実施	実施	—
『子ども読書の日』等に合わせたの行事開催やPR活動	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	実施	実施	—
児童図書館の環境整備	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	実施	実施	—
(仮称)子ども読書活動推進計画策定検討委員会	計画	—	—	検討準備	第3次計画策定
	実績	—	—	検討準備	—

4. 実施内容(実績)および効果

【実施内容】 ○家庭・地域における子どもの読書活動の推進 ・ブックスタートパック配布数(2,538件) ・保育園・幼稚園・小学生・中学生向けブックリスト配布数(19,602冊) ・8地域文庫(有志の方が町内会館等で、地域の人に貸出をしている団体)への配本。(2,916冊) ・寄贈本やリサイクル本の児童書を、希望する団体に配布。(234冊) ○学校への資料の提供および情報発信 ・横須賀市学校図書館研究会会議で、学校における市立図書館資料の活用等を図るため、「調べ学習」のための市立図書館利用手引の配布及び説明実施。 ・学校イントラ(市立学校ネットワークシステム)上で年4回おすすめ本の紹介や行事の情報提供を実施。 ・学校図書館担当者会議で、学校特別貸出の説明及び図書館の各種行事の紹介を実施。 ○『子ども読書の日』等に合わせたの行事開催やPR活動 ・子ども読書の日関連行事 「学生が創る企画展」(中央)、「人形劇(町のねずみといなかのねずみ)」・「おはなし会とプサルタコンサート」(児童)、「子ども読書の日」0・1・2歳児向けおはなし会(児童・北)、「田浦中学音楽部による演奏会」(北)、「見て聞いて楽しくゆかいな手作り紙芝居」(北)、「マジックショー」関連展示「不思議な世界」(南)を実施。 ・各館で特色を活かし、中央図書館では、「高校生歴史講座」を、南図書館では、読書週間に合わせて企画展示「こんな本に出会ってほしい～図書館から小学生におすすめの本～」を実施しました。 ○児童図書館の環境整備 ・閉館後毎日、書架のほこりはらいを行い館内美化に配慮するとともに、書架整理を実施。 ・衛生的に利用できるよう、毎休館日前に絵本の部屋のカーペット部分の除菌を実施。 ・2階のトイレが和式であったが、全て洋式のトイレに入れ替えを実施。 ・老朽化していた換気扇の新しいものへの入れ替えを実施。
--

【効果】

- ・横須賀市学校図書館研究会会議や学校図書館担当者会議で市立図書館利用手引の配布や学校特別貸出の説明を行ったので、学校特別貸出の利用校数と利用冊数が増加した。
- ・各種イベントの開催や企画展示により、図書館の魅力や読書の楽しさ等をアピールできたため、児童書の貸出冊数増につながった。

5. 課題

- 子ども向けの行事やPRによって、児童書の貸出冊数・児童図書館の来館者数は増加してきているが、行事については、子どもたちがより関心を持てるようなものを厳選し実施していくことが重要と考える。
- また、来館者をさらに増やしていくには、子どもたちが居心地がよく、また来たくなるような図書館づくりを目指していくことが重要と考える。

6. 課題に対する今後の改善策

- 行事を厳選し、子どもたちが関心を持ち楽しめるものを実施していく。
- 館内の飾りつけを季節に合ったものにしたり、絵本などを手に取りやすくするなどの工夫をしていく。

※学識経験者の意見等

- 児童サービスの活動は、いろいろと展開されている。資料については、他市と比較してどの位置にあるのかの検討も必要であろう。
- 幼稚園や保育園などとの連携について就学前の児童サービスの方法についてさらなる工夫が重要である。
- わが国の児童図書は世界的に高度な水準であるといわれている。そのうちで横須賀では、どのような資料が所蔵されているのかを関係機関に情報提供がなされることは重要である。
- 司書、社会教育施設職員などの取組を市民の側から把握できるようにしておくことが、社会教育活動の重要性を知らせることになる。また、職員の実践活動の成果を具体的な教育活動に役立たせることは重要である。
- 「子どもたちが居心地がよく、また来たくなるような図書館づくり」を具体的に進めてほしい。その具現化を通じて、放課後や休日、休業期間等に子どもたちが安心して一定時間過ごす場ができ、しかも文化的な経験を豊かにしていくことも可能となる。

※学識経験者の意見等に対する今後の方向性

- 資料について、所蔵数の他市との比較は難しく、自治体の規模や図書館の規模(収容数)によるが、決して少なくはないと思われる。新しい情報がよい資料の場合は買い替えを進めており、基本書・定番書については傷みが激しい場合を除いては所蔵している。
- ブックスタート以降就園前の施策について検討しているところであるが、来館を促すこと以外での方法としては予算要求等の問題で困難が予想される。
- 図書館ホームページの閲覧による蔵書検索はもちろん、ホームページでの毎月の新刊書の紹介を行っている。また、横須賀市教育情報センター(学校イントラネット)に年間4回情報発信を行い、「小学生向けの本」「おとなのための参考本」の紹介もしている。

No. 17	事業名	子ども向け博物館教育普及活動の推進
--------	-----	-------------------

1. 基礎情報

対応する重点課題	重点課題5:社会教育施設による学習支援の推進
掲載編	社会教育編
関連目標	目標5:図書館・博物館・美術館の活動を充実させます
関連施策	施策(13):博物館活動の充実
担当課	博物館運営課

2. 事業の概要

学校と連携または協力して、児童生徒の学習の場を提供します。

3. 行動計画

項目		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
学校教育で利用できる企画を開発し、教職員との共同研究を推進	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	実施	実施	—
「昔の暮らし」や「移動博物館」など、学校教育に役立つ展示・企画	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	実施	実施	—

4. 実施内容(実績)および効果

【自然部門】

(実施内容)

○希望校に対し、学芸員の出前授業および館内展示解説と、解説担当職員による天神島臨海自然教育園内の解説を実施した。

○教育研究所と協力して自由研究の成果展を行った。

○教育指導課と協力して創意工夫の成果展を行った。

(効果)

○理科や自然への理解を深め、研究に対する達成感を与えた。

○創意工夫に対する意欲を深め、達成感を与えた。

【人文部門】

(実施内容)

○希望校に対して常設展示とは別に、触れられる展示や体験型展示を用意するとともに、学芸員による解説や質疑応答を行った。

○学校内での資料利用を希望する場合は、収蔵資料の貸し出しを行った。

(効果)

○学芸員が直接対応し専門家を身近に感じることで、学習や研究に対する意欲を高めた。

○実物の資料を見たり、直接ふれることで、歴史や昔の暮らしに対する理解を深めた。

5. 課題

○利用を希望する学年および学校のさらなる拡大。

○馬堀自然教育園の利用の拡大。

6. 課題に対する今後の改善策

○利用を希望する学年および学校のさらなる拡大。

・学年ごとの学習内容に合わせた提供資料のメニューの充実。

・遠隔地の学校が来館しやすくなるための交通手段を検討する。

○馬堀自然教育園の利用の拡大

・園内の自然観察マップの制作に着手する。

・園内を案内し、自然を解説できる職員の配置を検討する。

※学識経験者の意見等

○小中学生へのサービスについて多大な努力を果たしている。同時にその成果が表れている。そのためにも、さらなる飛躍があってもよい。

○例えば、子ども時代に一流の作品にふれさせることが重要であるといわれている。このことを考えると、教材の開発、アーカイブ化の促進などが求められる。

○学校と博物館との多様な連携事業等を今後も継続して取り組んでいくようにし、同時に教員自身がどれほど博物館を見学、活用する機会を持っているか、その実態調査も必要である。教員自身が博物館の魅力や価値をどのように自覚しているかが鍵となる。

※学識経験者の意見等に対する今後の方向性

○昔の暮らしを学習する授業利用について、小学校3年生では来館校数が多いものの、6年生では参加校数が少なくなっており、小学校6年生で参加校数が少なくなっている原因究明や、授業での博物館利用に関する向上策の検討を目的として、小学校教員を対象としたアンケート調査を進める。

※備考(補足説明・用語解説など)

○博物館に付属する2カ所の自然教育園のうち、天神島臨海自然教育園は解説業務を担当する非常勤職員が配置されているが、馬堀自然教育園は園内管理を担当する臨時職員のみで運営している。

No. 18	事業名	美術館展覧会の充実
--------	-----	-----------

1. 基礎情報

対応する重点課題	重点課題5: 社会教育施設による学習支援の推進
掲載編	社会教育編
関連目標	目標5: 図書館・博物館・美術館の活動を充実させます
関連施策	施策(14): 美術館活動の充実
担当課	美術館運営課

2. 事業の概要

国内外の近代・現代美術を中心とした展覧会、多数の所蔵作品の紹介、および集客効果の高い企画展など、幅広いジャンルを対象とした展覧会を開催することで、多くの人々に優れた美術作品と出会い、親しみ、感動を得る場を提供します。

3. 行動計画

項目		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
企画展	計画	年6回開催	年6回開催	年6回開催	年6回開催
	実績	年6回開催	年6回開催	年6回開催	—
所蔵品展および谷内六郎館収蔵作品の展示	計画	年4回開催	年4回開催	年4回開催	年4回開催
	実績	年4回開催	年4回開催	年4回開催	—

4. 実施内容(実績)および効果

○企画展では、サブカルチャーを扱った「さくらももこの世界展」、博物館と連携した夏の親子向けの「自然と美術の標本展」、優れたフランス絵画を集めた「女性を描く」展、現代日本の彫刻家を代表する「新宮晋の宇宙船」、地域ゆかりの染色家である「中村光哉展」を開催し、多くの方に優れた美術に触れる機会を提供することができた。

○所蔵品展は年4回開催し、所蔵する作品をテーマをたてて紹介した。また会期ごとに本市ゆかりの作家などを対象とした特集展示を行った。また谷内六郎館も同様に年4回開催した。開館10周年にあたる平成29年度の特集のために、年間を通じて来館者から好きな作品を選んで投票してもらう市民投票を行った。この結果は平成29年度の展示に反映させ、市民とのかかわりを深め、所蔵品のPRをすすめていく。

○外国人へのPRとしては、これまで企画展の度に国際交流課が市内在住の外国人向けに発行している英語版情報誌「What's New in Yokosuka」(隔月発行)への企画展概要を掲載していたが、28年度途中から美術館ホームページにも掲載を始めた。あわせて外国人の来館状況の把握を平成28年1月から始めており、昨年度は計338人が来館したことがわかった。

○観覧者数は、年間観覧者数10万8千人を超えた。

5. 課題

○28年度に引き続き、外国人の観覧者を意識した取組を検討する必要がある。

○現在も行っているように博物館や図書館との連携をし、より効果的にお互いの館の活動をPRしていく方法を模索していく。

6. 課題に対する今後の改善策

○外国人に向け、美術館のホームページなどを利用して、積極的に情報を発信していく。

○博物館、図書館各施設と、予算計上の段階から開催事業についての情報共有をしていく仕組みをつくる。